

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：14302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720081

研究課題名（和文）

占領の複数性：GHQ 占領下における〈地方〉の言論環境と文化・思想の生成

研究課題名（英文）

Plurality of Occupation: Study of the provincial speech circumstances and formation of culture and thought under the occupation of the General Headquarters

研究代表者 天野 知幸 (AMANO CHISA)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40552998

研究成果の概要（和文）：

プランゲ文庫に所蔵されている検閲資料や GHQ 占領下に地方で発行されていた新聞・雑誌メディアの記事内容やそれらの表現に対する GHQ/SCAP 検閲の実態を調査・分析することによって、占領下における地方の言論環境、表現・思想の特性、文化・思想の生成のありかた、さらには GHQ/SCAP 検閲実態の多様性や言論統制の地方への浸透の様子について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

I revealed the property of provincial press, ideology and culture under the occupation of the General Headquarters, moreover I find the variety of GHQ/SCAP censorship the true state and the press control to the provinces by research on local media under the occupation of the GHQ.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：人文学・文学

キーワード：GHQ、占領政策、検閲、地方、文学

1. 研究開始当初の背景

2000 年以降、GHQ/SCAP 検閲に関する研究は、「占領期雑誌記事情報データベース化プロジェクト委員会」（代表：山本武利・早稲田大学政治経済学部教授）が 2000 年度より科学研究費補助金（研究成果公開促進費）によって作成したプランゲ文庫の「占領期新聞・雑誌情報データベース」（<http://m20thdb.jp/>）の作成とその完成以降、

飛躍的に進展し、文学のみならず、メディア、社会学など複数の人文学系の研究領域から研究成果が発表されていた。「占領期新聞・雑誌情報データベース」（<http://m20thdb.jp/>）自体もその一つであるが、山本武利氏を中心とする「20 世紀メディア研究所」（早稲田大学現代政治経済研究所内）の活動、「20 世紀メディア研究所」編集の雑誌『Intelligence』刊行、岩波書店から刊行された『占領期雑誌資料大系 大衆文化編』全 5 巻、文学編 全 5

巻などがそれにあたる。このほか個人による研究論文も多数発表されている。いずれも超領域的な研究であり、メディアのみならず、検閲という観点から戦後の多様な文化史、生活史を明らかにしてきた。

申請者も比較的早くから占領期研究に文学の分野から積極的に携わり、研究成果を複数発表してきた。とくに2004年4月から2006年3月までの3年間は、日本学術振興会特別研究員(PD)として、戦後文学・演劇・映画と社会制度との関係性や、GHQ占領期の言論環境、戦後文学・メディアにおける女性表象などを調査研究した(課題番号:16・11827、研究課題:「GHQ占領期における日本文学・演劇の研究:近年のメディア研究の成果を踏まえて」)。また、特別研究員奨励費交付終了後も継続して研究を行い、『占領期雑誌資料大系 文学編』でも解題執筆のほか、第4巻『「戦後」的問題系と文学』の章解説(「文学者の回想と平和への提言」)を担当した。

2. 研究の目的

1. にも記したとおり、GHQ/SCAP 検閲は近年盛んになされていたが、地方のメディアに関しては調査・考察が十分とは言えず、地域間の偏差なども明らかにはなっていなかった。また、研究代表者は検閲研究に携わるなかで、言論統制は必ずしも統一的なものではなく、メディア間において差があったことをつきとめた。

本研究では、こうした問題意識のもと、メディア間、地域間の差異を検証することで、個々の地域の出版状況の違いはもちろんのこと言論統制の実態の違い——〈地方〉と〈中央〉との違いや、〈地方〉内における偏差など——を、発行部数や出版流通の問題も鑑みながら解明し、一枚岩として捉えられがちな占領政策・言論統制が実際には持っていたはずの複数性と、言語環境の違いが作り出す文化環境・表現活動の多様性を明らかにしてゆきたいと考えた。

3. 研究の方法

プランゲ文庫の資料をもとに、地方発行のメディアに対する検閲実態の調査・考察を行うとともに、中央のメディアとの比較を行った。

具体的には以下の手順を踏んだ。

- (1) インターネットで公開されているデータベース(「占領期新聞・雑誌情報データベース」)を用い、検閲の有無を調査し、検閲による指示が与えられた記事、およびメディアを調べる。

- (2) (1)について、国立国会図書館東京本館憲政資料室、国際日本文化研究センター(京都市)所蔵のプランゲ文庫を閲覧、複写し、個々の分析を進める。

- (3) (2)の分析結果をリスト化し、それを調査報告として発表するとともに、関西内での偏差、〈中央〉との比較を行い、特異性について論文にまとめる。

4. 研究成果

- (1) GHQ 占領下において京都市および京都府で発行された雑誌の検閲実態調査・分析を行うとともに、地方誌・紙の検閲実態の特徴を明らかにするために、比較対照材料として西日本で刊行された雑誌の記事分析も行った。この調査・分析の結果、地方発行の発行部数の少ない雑誌や小規模なコミュニティー向けの雑誌にも、厳しい検閲の視線が向けられている事例があることがわかった。

京都市で発行されていた雑誌『新月』の調査から本研究の一例を以下に紹介する。

雑誌『新月』は、発行地を京都市伏見区深草大鎚谷東寺町九二とし、隔月で発行されていた短歌の雑誌である。(プランゲ文庫所蔵情報は、第2号('46年2月)~19号('48年7月)、5巻8号('48年8月)~6巻7号('49年10月)。なお、欠号(4号、6号、6巻2号)がある。)旧制中学校の校長など、長く教育に携わっていた田中常憲を主幹とする本雑誌は、関西を中心に全国に広がる同人たちが短歌を投稿し、発表する媒体であった。(ちなみに、2号に短歌が収録されている同人の居住地は以下の通りである。京都16名、丹後岩瀧11名、宮津4名、丹後3名、桃山2名、伏見2名、舞鶴1名、福知山1名、滋賀7名、大阪3名、和歌山2名、姫路1名、紀伊1名、岡山1名、呉1名、福岡1名、熊本1名、名古屋16名、愛知4名、静岡1名、石川1名、長野1名、信濃上田1名、東京3名、越後高田1名、軽井沢1名、葉山1名、仙台1名)

こうした各地に広がる同人たちの短歌を収めた本誌には、アマチュア歌人たちの日常意識や感慨が詠まれたものが少なくない。しかし、プランゲ文庫に収められているゲラには、そうした無名の表現者の短歌も一首一首を丹念にチェックした形跡があり、彼らのようなアマチュアらによる表現と受容の場にも、検閲が厳しい監視の視線を寄せ、表現活動

を規制していたことが指摘できる。いずれの号も、「Delete(削除)」の書き込み、もしくは同スタンプが押されたゲラと、それらの指示を反映させたゲラの両方がブランゲ文庫には収められており、そのことや、CCD からと思われる本誌の編集部に対するゲラ提出の催促の葉書がブランゲ文庫に存在していることが、占領政策および言論統制を地方にまで浸透させようとしていたGHQの思惑を窺わせる。

なかでも共産主義、封建主義、天皇への言及については削除指示が出されており、それらに対する規制は強かったようだ。以下はその一例である。

【事例1】

西野公洲「赤旗のゼネスト各地に跳梁す国も社会も滅びゆくらむ」(第8号(1947年2月)掲載の「特別詠草」「近什七首」のうちの一首。)

【事例2】

田中常憲「わらび食しつゝ昔恋ひしふ周の葉喰まじと入りし首陽山の花鳥」(第10号(1947年6月)掲載の「作品(一)」のうちの一首。故事を踏まえることで封建思想賛美を表現したが、封建思想を検閲官に読み取られ、指示を受けたものと思われる。)

また、マッカーサーに対する言及にも「Inappropriate Reference to General MacArthur」との理由から削除の指示が出されている。これは、検閲という表現の監視の制度を逆手にとってマッカーサーへ直接的に自らの思いを述べようとした興味深い例であるが、そうしたコミュニケーションが実際には実現することはなかった。以下はその短歌である。

【事例3】

田中常憲「マ元帥閣下 謹みて和歌たてまつる 野に立ちて 叫ぶわれ等が声を聞かせと／たゞた頼る われ等は閣下にたゞた頼る 絶対の権力もたぬ日本人われ等は／道すたれ 百鬼夜行の国のさま 閣下よいかに観てをあらむか／ぜんなく正邪 けじめもわかず (たゞ) 果てつ 信賞必罰 たゞ断にあらむか／殺人 強盗 悪質の闇 はびこりぬ 恋しからずや敗戦国日本／強き権力 われに与へよ 国を挙げて警察力の微なるを嘆かふ／悲しからずや日比谷が原よ たゞ党利 たゞ党略のみ 容るすべからず／おとゞ等を鞭うち 救ひの御手(三字不明)に泣く 引

揚 復員罹災者のために／いつさいの社会悪の根を絶たむが〔為〕に さらにと冀ふ生産面に／水は明らかに 山はさみどり 美し日本 閣下よ 日本を愛せさせたまへ／美し国日本を知るは閣下のみ 疾く 疾く疾く 歩ませたまへ 世界の上に／四月近し さくらも咲かむ 東山 西山 閣下の御車を待てり」(第9号掲載)

こうした検閲の厳しさは、本誌が短歌雑誌であることに起因しているものと思われる。占領期に短歌という表現形態によって天皇の神格性の回復を図ろうとした短歌雑誌において、表現者と検閲官との厳しい攻防があったことが、時野谷ゆり「占領期の「右翼」と短歌——歌道雑誌『不二』に見る影山正治の言説とGHQの検閲」(『Intelligence』2007年4月)によって報告されているが、本誌のような地方刊行の同人雑誌であっても、検閲による表現の監視の厳しいことが、本誌の調査・考察からわかった。

また、本誌の研究から、検閲の場における偏差が、検閲官の読解力によっても生じることがより明らかとなってきた。比喩の多用という短歌特有の表現方法は、表現者にとって自らの言葉を読者に確実に届けるのに有効に機能したであろうが、同時に、検閲官の読解によっては厳しい処分を受けることもあった。この点からも、検閲の方針は、それが実際に適応される場においては決して一定ではなく、偏差が存在するとわかる。

そして、本研究から、地方発行の雑誌に対する検閲が中央発行のメディアに対する検閲および言論統制とは異なる方法によって、GHQの占領政策を浸透させる機能を果たしたことがわかってきた。というのも、多くの号では、田中常憲による同人発表の短歌への短評頁が存在しており、表現の発表の場であると同時に、短歌を学ぶ場であったことが窺われる。そうした場に対する検閲の影響は、単なるメディアや表現に対する規制としてのみ考えるべきではなく、地方における表現・思想形成の場への規制と考えるべきだろう。本研究において、占領期における思想形成と検閲との関係性について、地方誌の分析をもとに考察することの重要性を改めて確認した。

以上、紹介した『新月』の調査・考察については、学会発表の3「GHQ占領期における地方雑誌とその検閲実態について—京都市を発行地とする文芸・思想雑誌を中心に—」と2「創造と権力との争闘—関西発行の文芸誌からの考察

一」とでわけて、報告を行った。)

- (2) 検閲の揺れや複数性が地域間で存在したことを明らかにするために、A)でも確認した共産主義言説に注目して、京都と東京、京都と他の地方都市との検閲実態について調査した。とくに地方新聞や地方誌の事例分析から、「ソ連」関連記事に関する厳しい監視の視線が東京だけでなく地方メディアにも向けられていたことや、小規模なコミュニティに向けたメディアも題材によっては厳しく検閲されていたことがわかった。また一方で、地方発行のメディア上に、中央とは異なる情報伝達や表現活動の場が創造されていたことを明らかにした。

以下、地方発行の二つの新聞、雑誌を例に、本研究を紹介する。

京都市の検閲有新聞記事の多くは『京都新聞』(京都新聞社)に掲載された記事である。そのため、まずは『京都新聞』の分析を行った。このメディアにおいては、「引揚」「復員」関連記事が目立つという一つの特徴があるが、それは引揚船の寄港地である舞鶴を近くに持つ京都市という地域性が関係している。国家的関心/地域的関心の両方を呼んだはずの情報、地方発行の新聞において、どう伝えられ、そしてそこにどのような監視の視線が及んでいたかを確かめた。

たとえば、『京都新聞』の1948、49年の記事では、共産主義排除を前面に押し出した「引揚」言説と、寄港地である舞鶴を抱える地元向けの記事、さらには、下山・三鷹・松川事件に関する記事や、アメリカと占領軍を礼賛するような記事など、様々な情報や欲望が錯綜し、当時の複雑な時代状況が紙面に反映されている。それらの多くの紙面の端には他のメディアと同様に、「File」というスタンプが押され、情報空間を丸ごと保存・管理しようとするGHQ側の思惑を確かめることができた。

そのほか、この事例をより詳しく考えるために、博多引揚援護局内発行の雑誌『みなと 大陸人文化雑誌』の調査・考察も加えて行った。『みなと』は博多海事記者会(1947年2月号より社会奉仕光華園)から発行され、発行地を福岡市博多引揚援護局内とする地方誌である。創刊は1946年6月である。(プランゲ文庫所蔵情報は、1巻1号(1946年6月)~4巻1・2号[通号]31集(19492月)である。欠号2巻。)

『みなと』は引揚援護局が発行していた雑誌であるために、『京都新聞』や『新月』以上に、「引揚」や共産主義言説が

数多く見られる。この場合も、他の例に漏れず削除指示が出されたものが少なくない。以下はその例である。

【事例1】横田文子「帰郷者」

「八月×日/ソ連兵の姿、しばしば窓より見受けらる。いつになったら外出できるかわからず。山田さんの奥さんわざわざボロを着、顔に薄墨ぬる。笑いごとにもあらざるなり。市中はバリケードこそ取りのぞかれたが終日終夜不気味な銃声絶えず。不安は益々昂まるなり。」(第3巻6・7号、1948年7月)

【事例2】春田暁一「朝鮮林檎のこと」

「敗戦後、北鮮に抑留されて、生活苦の果ては、蓼の嫩芽を摘んで、食用にしたものである。その蓼が延びし頃、メーデーが訪れて来た。/日本時代、メーデーの行事は禁ぜられていたるも、ソ連配下になりて、盛大に執行せられた。勿論日本人の参加は許されず、日本部落まで、侮蔑的言動を以て、示威運動されたので、難をおそれて、私達は家の中で、ドンチヤン騒ぎを聞いていたに過ぎない。」(第3巻6・7号、1948年7月、目次タイトルは「朝鮮林檎」。)

【事例3】榊山潤一郎「復員者の眼と耳」

「民主主義と共産主義との戦いは、祖国の至る所に展開されつつある。」(第3巻8・9号、1948年9月)

また、本誌においては、旧「在満」作家と呼ばれた作家らが「引揚」直後にその表現活動の場として利用し、引揚援護の方針とは別に、引揚者たちの共同意識や記憶を言語化していたことも確認できた。以下は、その例である。

【事例4】三宅豊子「おおい」

- ・ 混沌たる世の相かなその中より何手掴みて吾生きなむか
- ・ 還りきしわがふるさととは女らが脂粉の顔の寂しくありけり
- ・ 犇きて人ゆとりなき暮しごま都会は住むに寂しきところ
- ・ 還りきていまさらに恋ほしおおらかに明るくひろき満洲の天地
- ・ 目路はろに地平かすみてひらけたる満洲平野夢に恋ほしむ
- ・ 秋の日光に満洲の平野は高粱の実もたわたわと実り居るらむ
- ・ 引揚者という名に生きて人の家に今年の冬を迎えむとす

(以上、第2巻第10号、1947年4

月に掲載された短歌。)

これもまた地域特有の表現・思想の形成のありかたを示す事例といえる。地方発行の雑誌や新聞メディアには、地域固有の話題や情報が掲載されるばかりでなく、固有の記憶や表現が形成され、伝達されていたといえるが、そうした場にも検閲による規制・監視が徹底されていたことが確認できた。

以上、紹介した調査・考察については、学会発表の1「GHQ 占領下における地方の文学活動と GHQ/SCAP 検閲」および雑誌論文の1「満州文学」のゆくえ——GHQ/SCAP 検閲と地方雑誌の調査を踏まえた考察」で報告を行った。

- (3) アメリカ合衆国にあるメリーランド大学図書館ブラング文庫において、原資料をもとにした調査も行い、日本国内では見ることのできない GHQ/SCAP 検閲を受けた書籍の検閲実態や、地方発行のメディアへの検閲指示（書き込み）の様子や出版部数などについて確認した。

ブラング文庫とは、ゴードン・W・ブラング（Gordon William Prange 1910-1980）が、GHQ/SCAP 検閲資料の歴史的価値に注目し、メリーランド大学学長バードらを説得し、そのうちの図書、雑誌、新聞等をメリーランド大学に移管させたものである。日本の国立国会図書館の HP によれば、雑誌約 13,800 タイトル、新聞・通信約 18,000 タイトル、図書約 73,000 冊、通信社写真 10,000 枚、地図・通信 640 枚、ポスター 90 枚からなり、このなかには、約 60 万ページの検閲文書が含まれているとされる。このうち図書、写真、ポスターなどの検閲実態について調査を行った。

この調査においては、日本国内に所蔵されていない媒体の検閲実態を多数確認するとともに、アメリカ国内におけるブラング文庫の研究および所蔵のありかたについて知ることができた。

また、日本国内では見ることのできない、占領下の地方で発行されていたポスターの調査を行った。この調査においては、ポスターというメディアが、占領政策の地方への伝達・浸透において、いかに有効に機能したかを考察することの重要性を確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- 1 天野知幸、「満州文学」のゆくえ——GHQ/SCAP 検閲と地方雑誌の調査を踏まえた考察、京都教育大学国文学会誌、査読無、39号、2013、pp.11-27

〔学会発表〕(計 3 件)

- 1 天野知幸、GHQ 占領下における地方の文学活動と GHQ/SCAP 検閲、京都教育大学国文学会、京都教育大学、2012年 07 月 28 日
- 2 天野知幸、創造と権力との争闘—関西発行の文芸誌からの考察—、20 世紀メディア研究所、早稲田大学、2011 年 4 月 16 日
- 3 天野知幸、GHQ 占領期における地方雑誌とその検閲実態について—京都市を発行地とする文芸・思想雑誌を中心に—、滋賀大学国文学会、滋賀大学、2010 年 12 月 5 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

研究代表者 天野 知幸 (AMANO CHISA)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40552998